

2

茨城大学 4年 増田 美紅

拠り所の再興

-木枯神社とまちを繋ぐ親水空間-



# 掘り所の再興—木枯神社とまちを繋ぐ親水空間— 19t5060g 増田美紅

## 建築概要

所在地 静岡県静岡市葵区羽鳥

主要用途 親水公園

敷地面積

延床面積

用途地域

構造 木造、RC造、杭基礎



## 01 問題提起

現代人の生活には、日常的に自然と触れ合う機会が減少している。コロナウイルスの蔓延を契機に、住空間やオフィス空間での過ごし方が見直されるとともに、地方移住の選択肢が浸透しつつある。そんな地方都市には、東京都心等の都会に比べ豊かな自然が存在する。しかし、自然豊かな地方であっても、その資源を生かきれていないと考える。特に河川利用の現状は、遠くから山並みを眺めたり、土手を散歩コースにしたり、夏に川遊びをしたりと用途は限られている。

## 02 テーマ

川辺空間に食事や昼寝、読書といった「日常の暮らし」を表出させることにより、河原のポテンシャルを発揮する建築を計画する。河川の日常利用化に当たり、居場所の核となる地域の掘り所を起点に親水公園を形成していく。

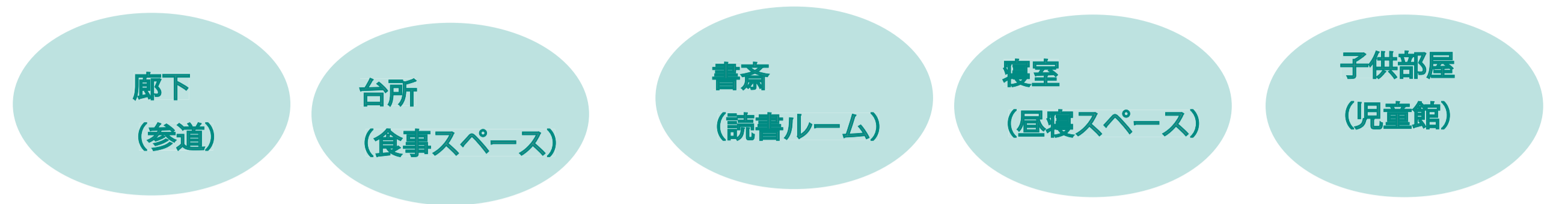


**藁科川の特徴**

- ・安倍川水系最大の支流、一級河川
- ・下流部は網状河川
- ・洪水時に川床や流路が大きく変動する
- ・常緑広葉樹林の貴重な自然林が一部残る
- ・徳川領国時代の治水事業により整備された「霞堤」が土手の基盤となっている

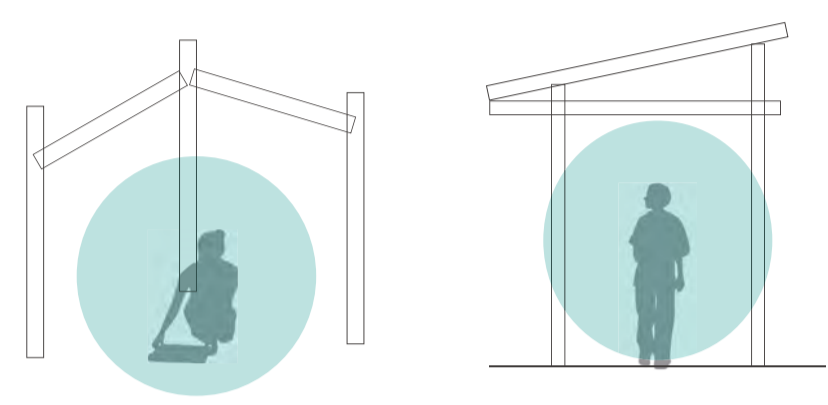


**日常と信仰**が共存する参拝空間 → 住居の機能を公共空間に持ち込むことで、自然の場で日常的な活動を行う  
住居の各居室は、機能をもちながらも使い方に縛られない



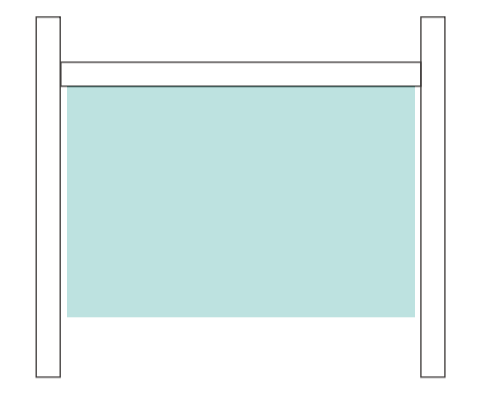
**柱と梁**

柱と梁によって空間をゆるやかに分節  
人の居場所や参道空間を形成する



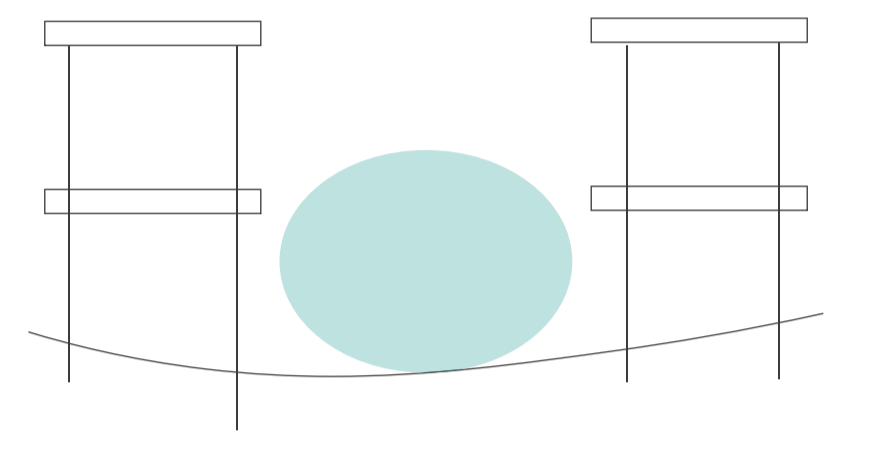
**膜**

梁に膜をかけ、空間を仕切る  
用途や人数によって自由に膜をかけ変える



**隙間**

建築の間のできる隙間が祭りの導線となる



**敷地周辺地域の特徴**

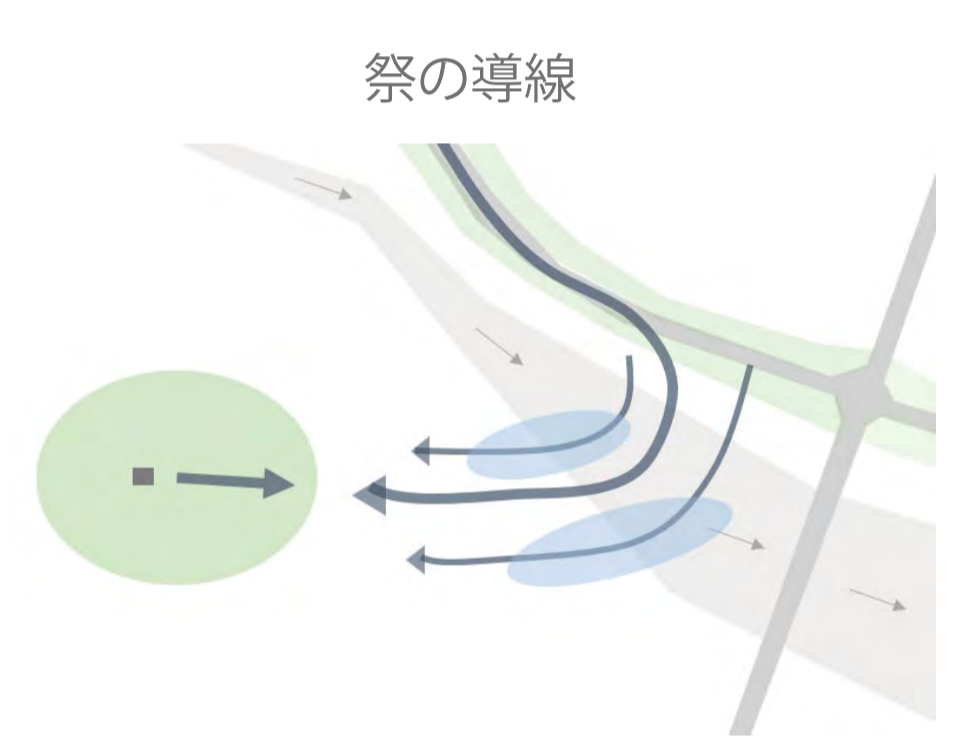
- ・山間は木材の産地
- ・静岡市内に勤務する人々のベッドタウン
- ・高齢化が進行しているものの、子供は多い

**抛り所としての木枯らしの森と木枯神社**

- ・川中島にある木枯らしの森の頂上に位置する
  - ・川の中に入って渡る神社まで渡る
  - ・樹木信仰の対象として崇められてきた
  - ・美しい景観から、県の指定名勝地に
  - ・地域住民なら誰もが知る憩いの場
- **荘厳な神社というより身近な癒しとなる神社**

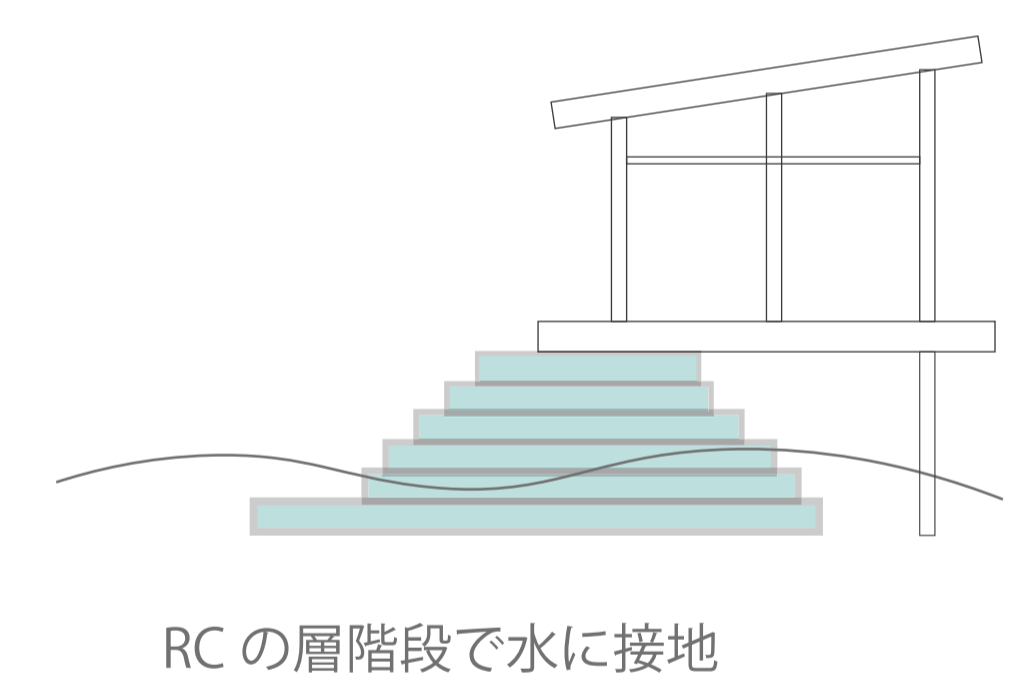
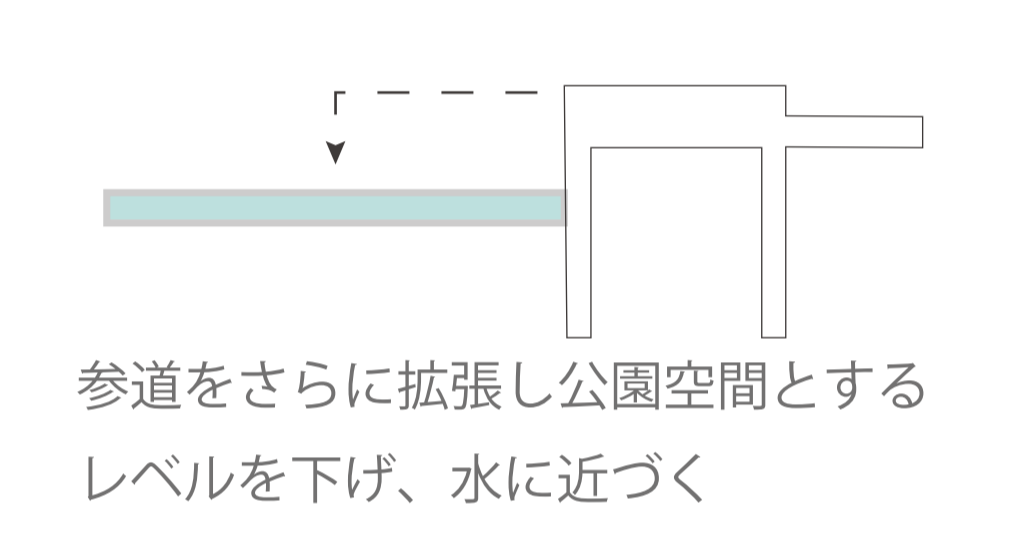
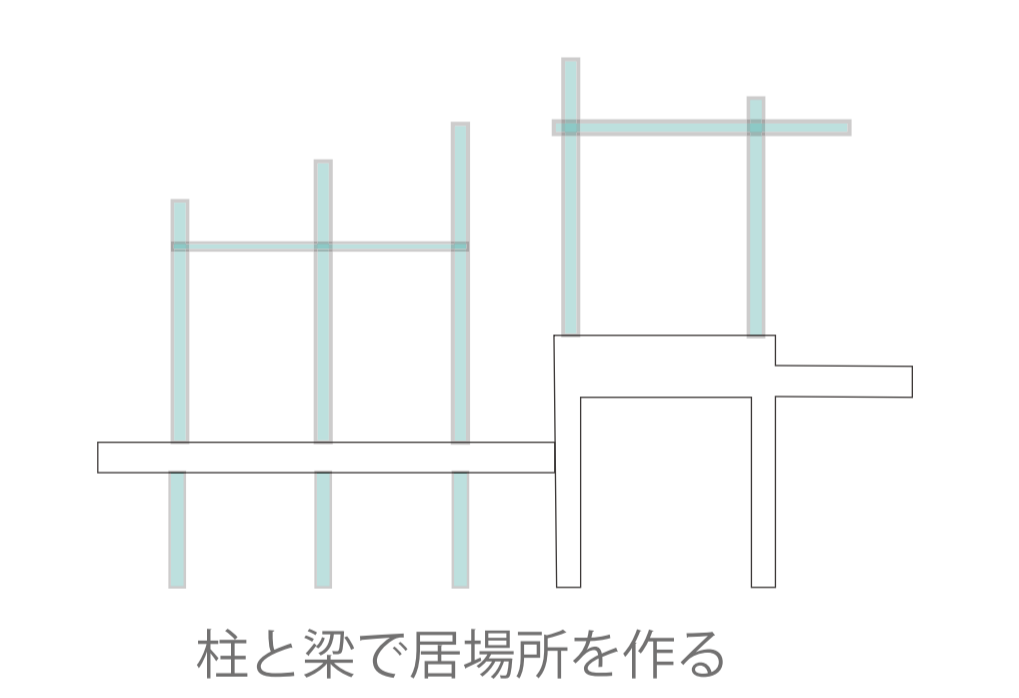
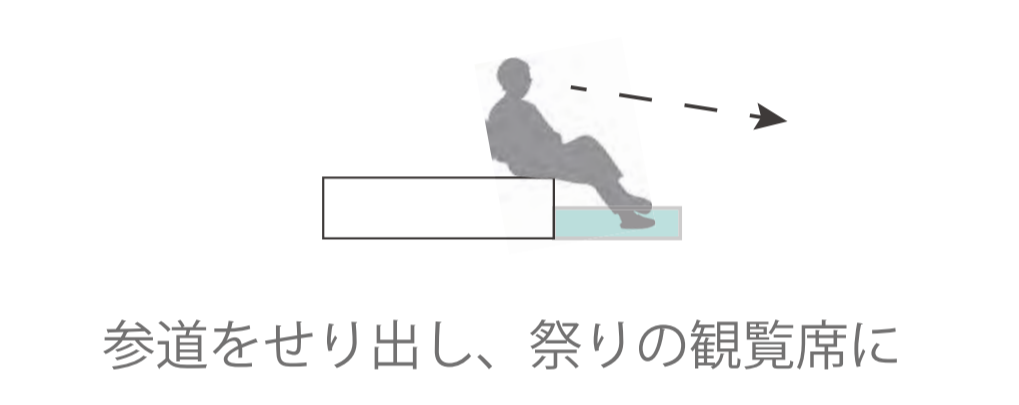


**ゾーニング**



祭の導線の両脇に参道と公園を配置し、  
建築の隙間が神様の空間となる。

**川辺の建築形態の提案**



**木枯らしの森と木枯神社の歴史背景**

『枕草子』をはじめ、数々の和歌に読まれる  
清少納言『枕草子』「森は木枯らしの森」

お参りがしにくい  
ため  
羽鳥地区の八幡神社にご神体が移された

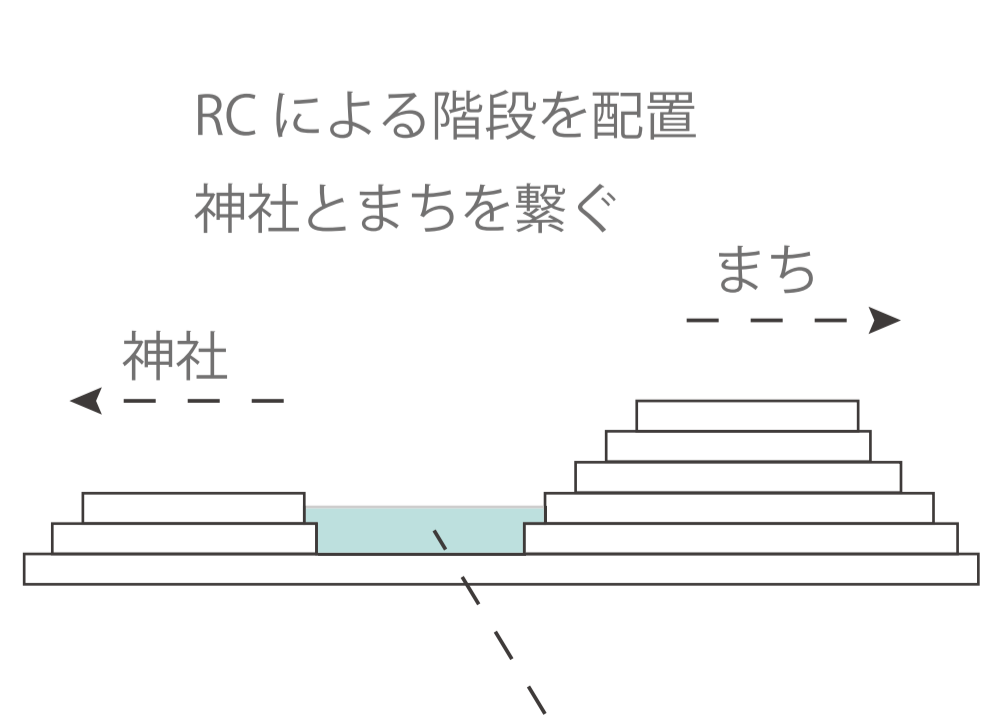
徳川公により東海道を整備されるまで  
東西の交通の中継地点だった

平安時代 江戸時代 徳川家の領国時代 現在

毎年9月に行う「八幡神社例大祭」にて  
ご神体を戻す「神輿渡御」がある

**境界としての川を渡る行為**

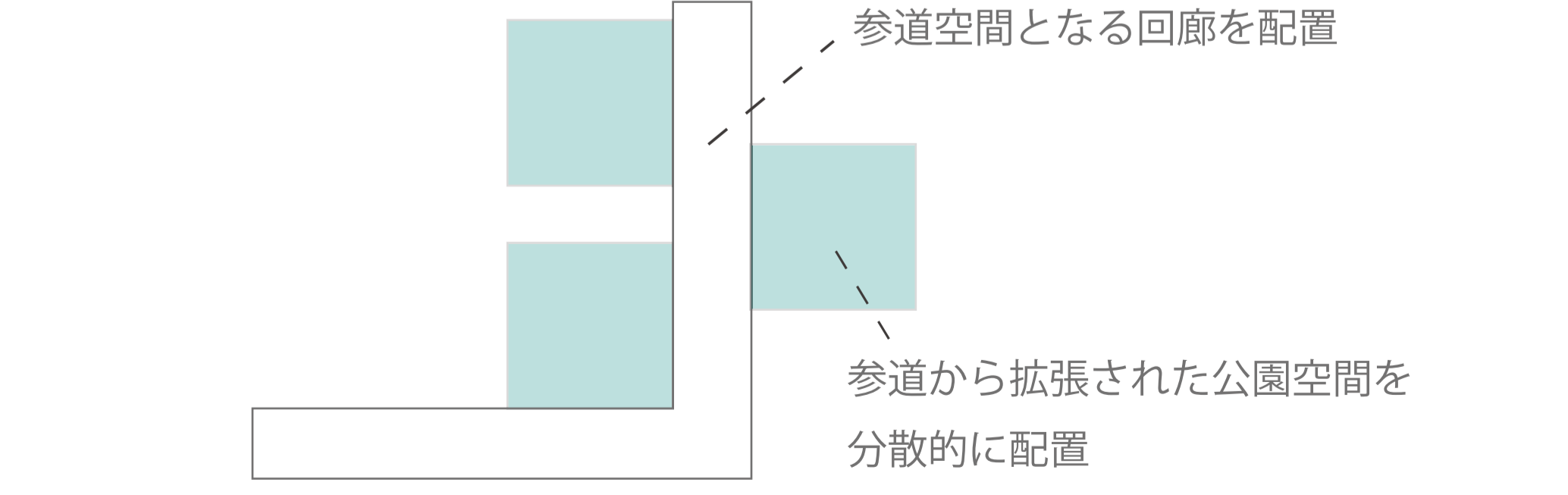
川は神社とまちの境界の役割を果たす



入水して参拝する行為を残すレベル設定  
利用者：地域住民  
利用方法：静岡市葵区の自治体による管理

**伝統的神社建築に倣った分散型の平面配置**

分散型：分散配置した建物を回廊が繋ぐ方式



参道空間となる回廊を配置  
開かれた平面計画により、周辺の自然環境を味わう

**神社・河原利用の課題**

- ①アクセスの悪さによる神社利用者の減少  
神社までの橋がないため、川に入って渡る  
(増水時は危険で渡れない)
- ②公共空間の不足  
河川敷整備がされておらず、利用用途が夏の  
レジャーや散歩に限られる

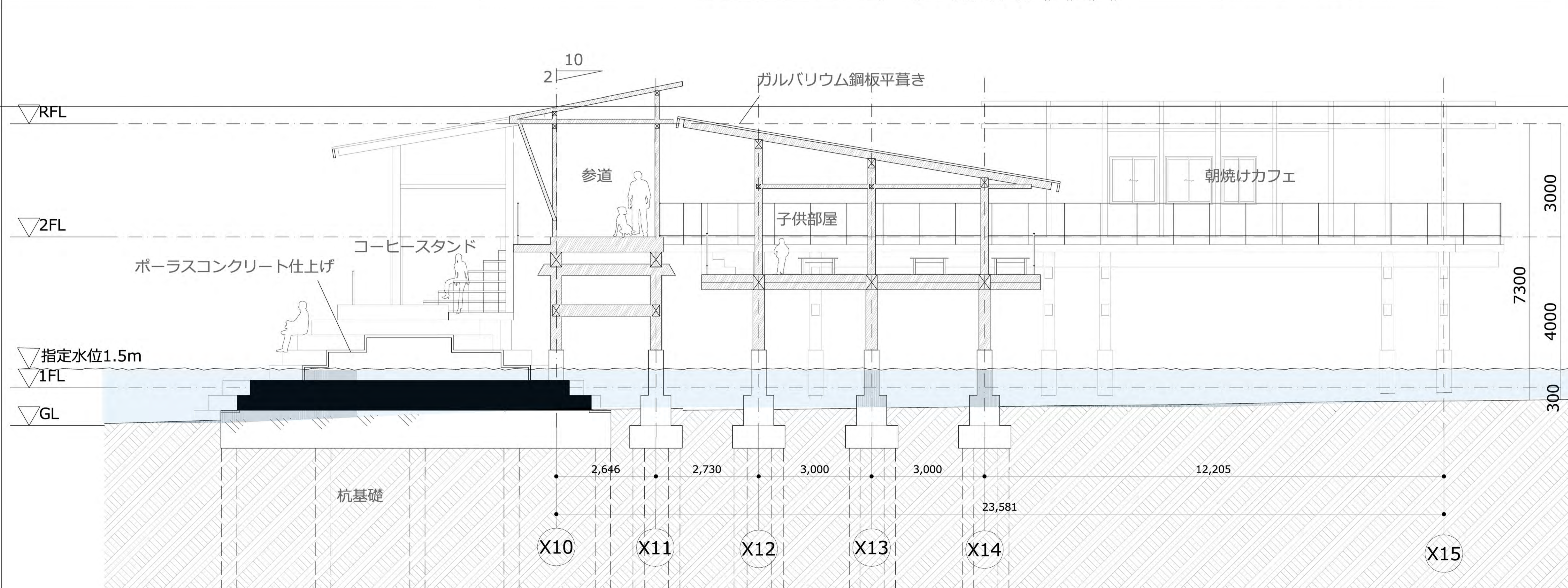
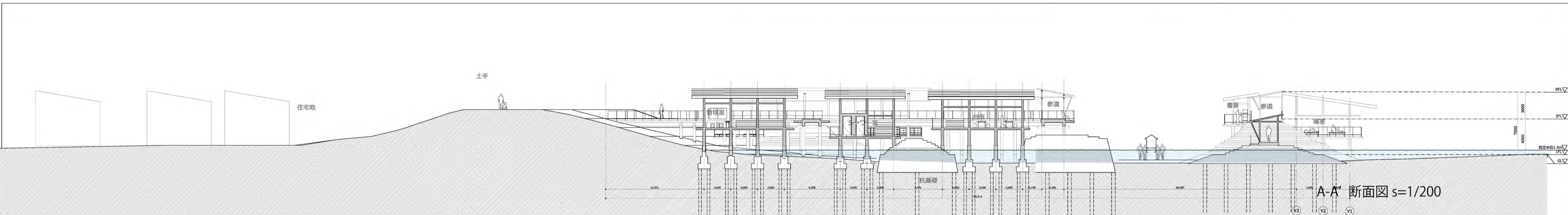
→ **参拝空間と親水公園の計画**  
利用者：地域住民  
利用方法：静岡市葵区の自治体による管理



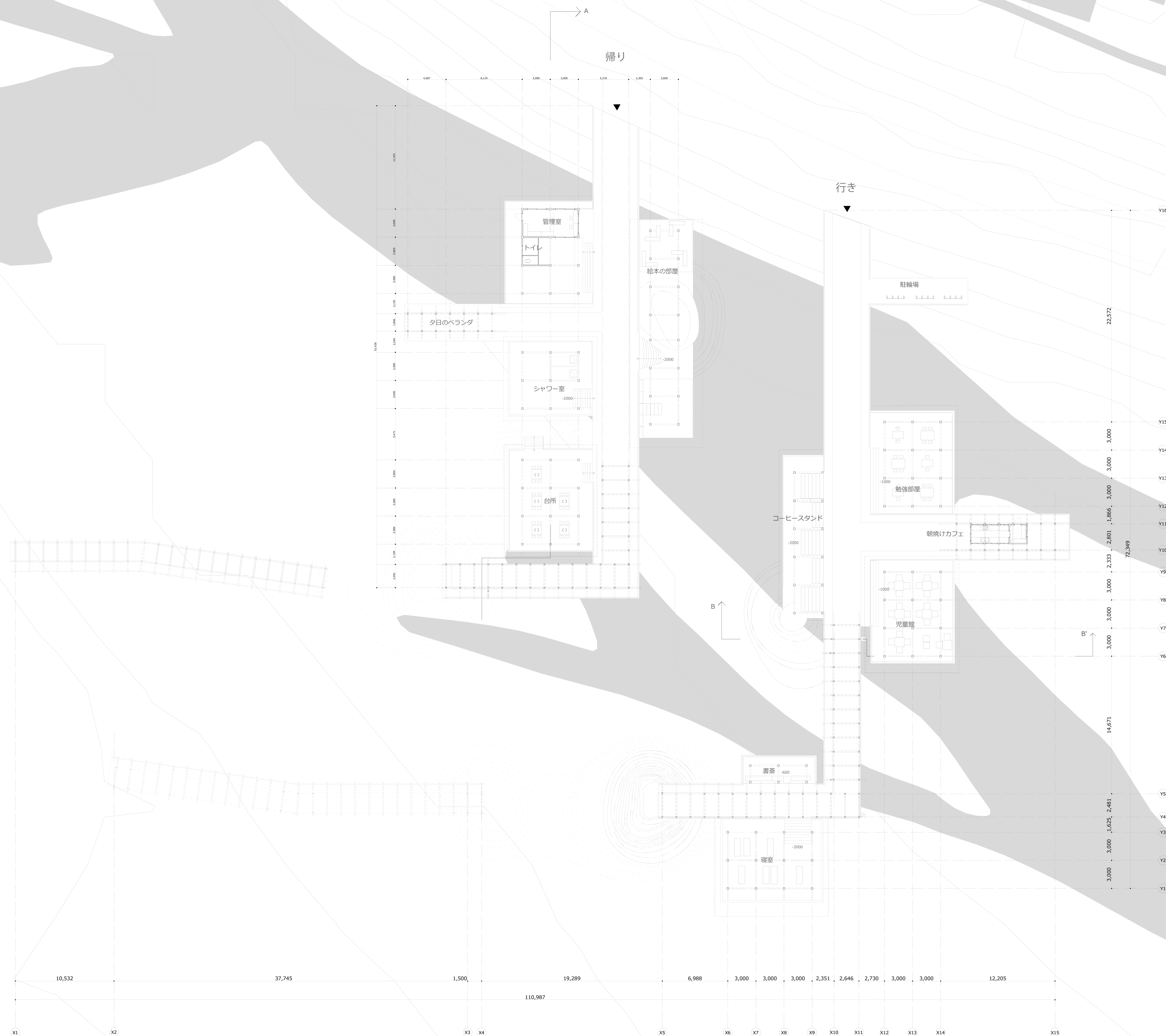
静岡市のすごしやすい気候

- ・温暖な気候  
平均気温 16 度、最低気温 5℃程度
- ・晴れの日が多い  
晴天ランキング 2021 ー全国 4 位
- ・冬季の日照時間が長い

建築家: 〇〇



詳細断面図 s=1/50



# ハレとケ

ケの日は参道の導線に、  
ハレの日は祭の観覧席となる



# 境界のレベル差

川を渡る際は、行きは水につかるレベルで、  
帰りは水につからない安全なレベルで



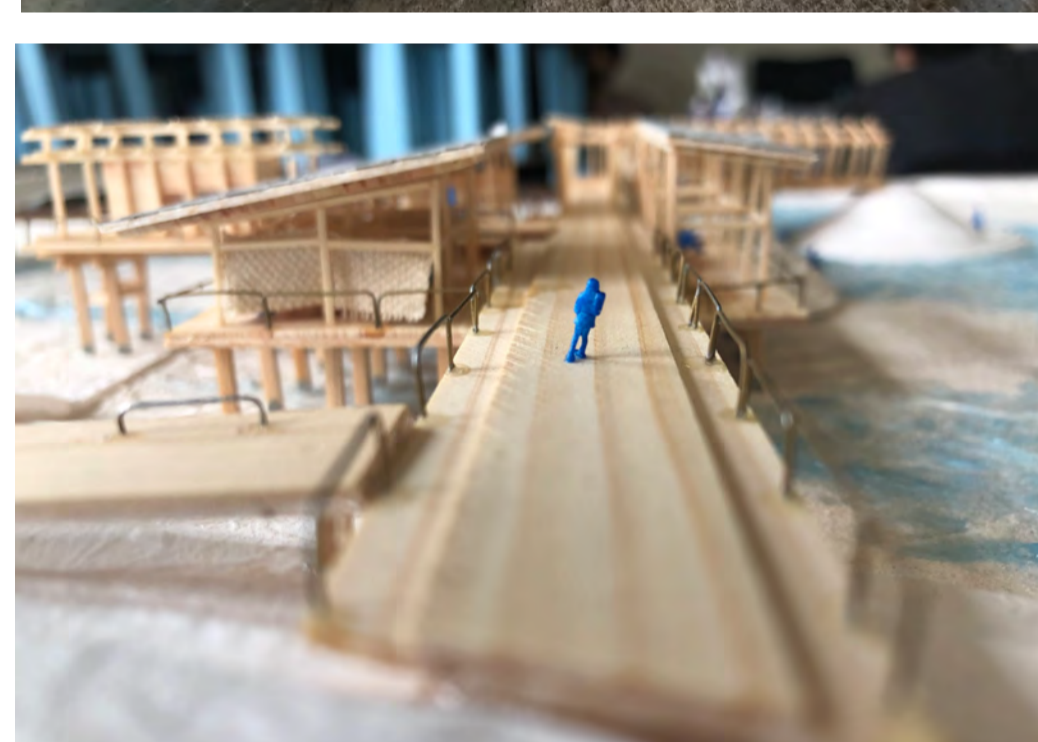
# 季節ごとの膜の使い方

夏場は日よけに  
冬場は風よけとして最適な方位に膜を張る  
ケの日は参道の導線に、



# アプローチ

アプローチは公園の要素が濃くなるよう  
参道幅が広く、架構もない開けた空間に



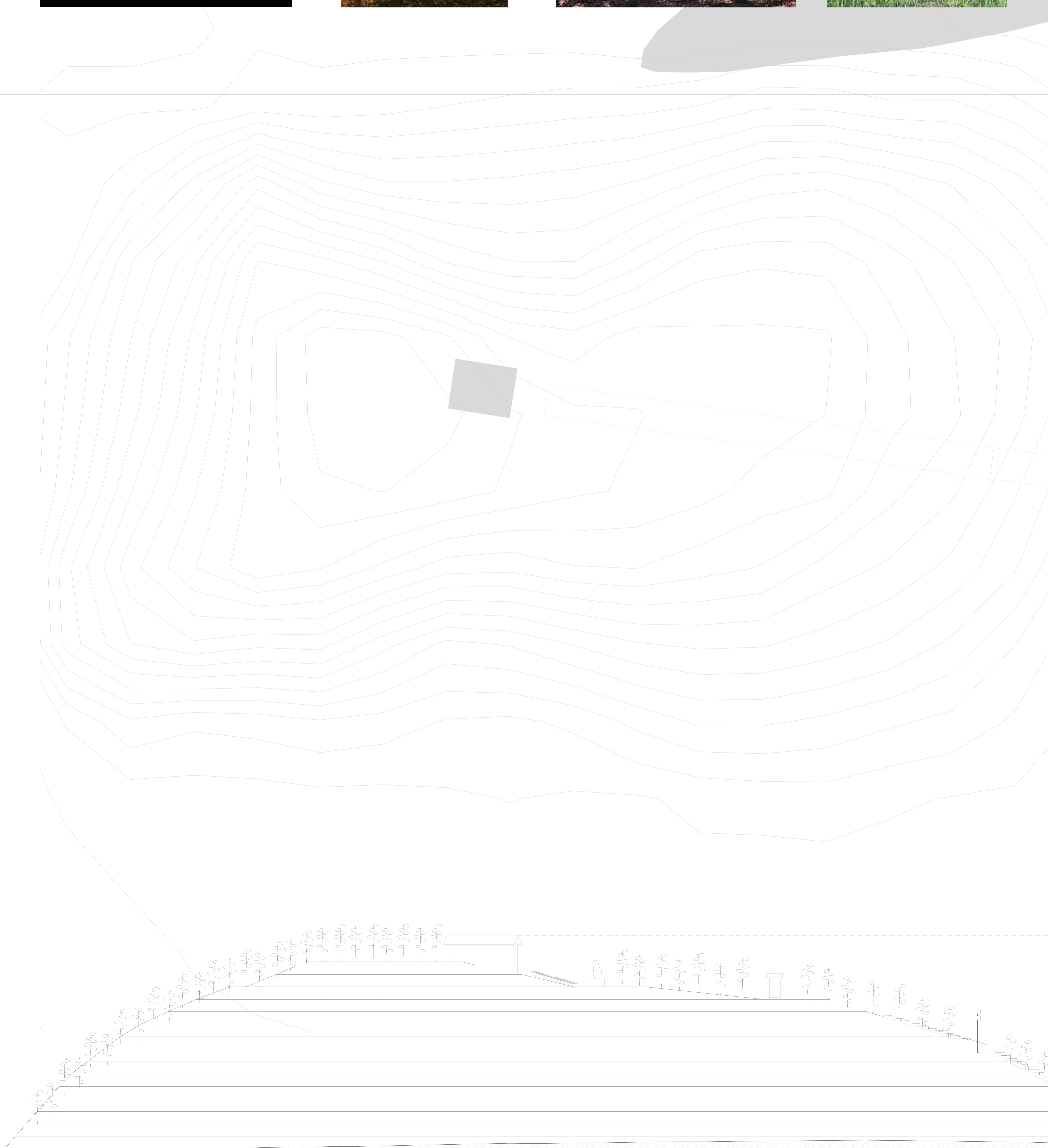
# 膜の間仕切りのバリエーション

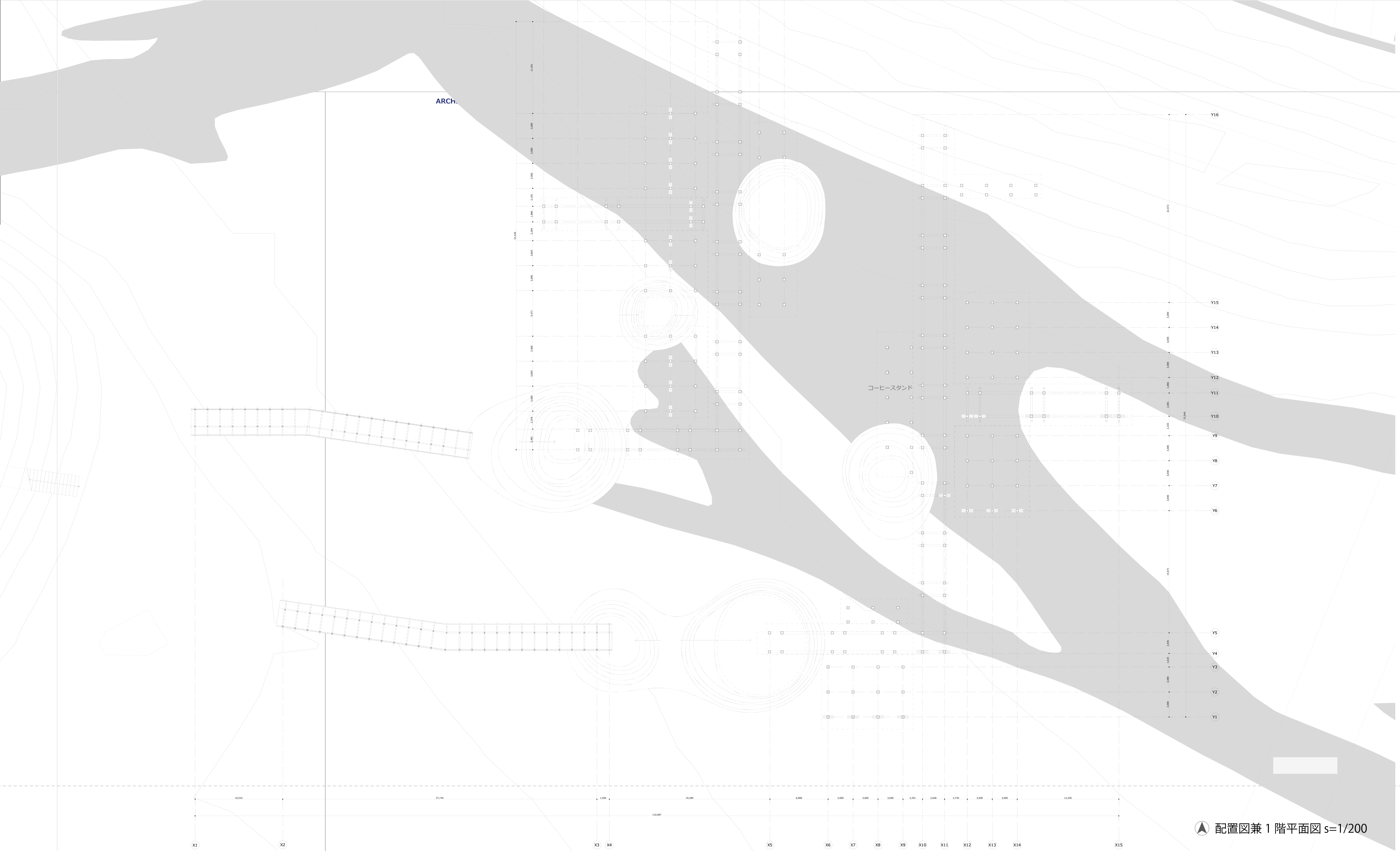
地域活動を行う際は広く間仕切り、集会場  
としての役割を果たす  
通常時は細かくわけ、それぞれの居場所を  
作る



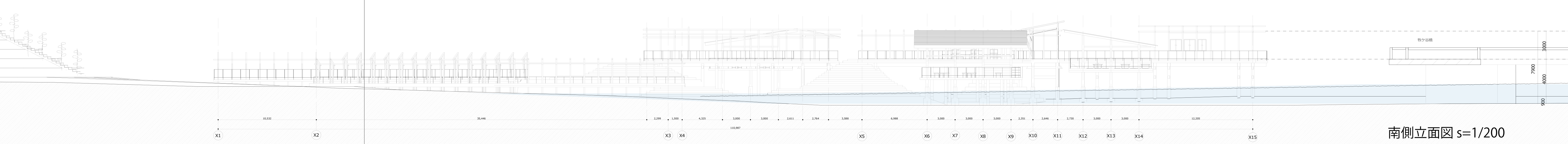
# 親水公園空間

公園空間から層階段が伸び、水面に接地する





配置図兼1階平面図 s=1/200



南側立面図 s=1/200